
アトリエデッサン☆美大受験日記

かやしまみづき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アトリエデッサン☆美大受験日記

【Nコード】

N9418H

【作者名】

かやしまみづき

【あらすじ】

美大を目指す高校生たちの日常。美大受験の全てが分かります。多分。

幕開け アトリエデビューと落下物

「きゃあっ！ 危ない！！」

「え？」

歩道を歩いていたら、頭上から声が降ってきた。

何事かと思いつく上を向くと、色水と黄色いバケツも降ってきた。

色水を頭からかぶって、バケツはまるでコントの様に私の頭を直撃。

カコーン！ と小気味良い音が辺りに響く。

あまりに突然すぎて、ずぶ濡れのまま固まるしかなかった。

これが私の美術受験予備校デビューの出来事。

「ごめんねごめんねー」

とりあえず歩道に転がった絵の具バケツを回収していると、ツインテールの小柄

な子がすごい勢いでビルから出てきた。

わっ、可愛い。

白い肌に自然な茶色の髪の毛。大きな瞳は潤んで今にも泣き出しそう。

色素が薄くて人形みたい。

私が男だったら絶対一目惚れしてるな。

「大丈夫、平気」

ワイシャツは邪悪な色が染み付いてもう使い物にならないだろうけど、わざとじ

やないししょうがない。

「でも服が！ 何か着替え貸すよ！！」

「いいよいいよ。ジャージ持ってるし」

私は慌てて断った。

この子、身長161の私より頭1個分くらい小さいし、何より華奢だから絶対入らない。

「うー、ごめんね……」

「大丈夫だって。それより、このアトリエの人だよね？」
小動物みたいな目で見つめられて、たじろいだ私は無理矢理話題をそらした。

「そうだよ。もしかして新入りさん？」

憂いを帯びていた瞳がぱあっと輝いた。可愛いなあもう。

「うん。今日からなんだ」

「わあ、よろしくね！ あたしデザイン科の高島千帆たかしまちほっていうの」
「一緒だ！ 私、デザイン科の水島直みずしなお。よろしく」

なんか、幸先いいかも。

こんなすぐに同じ科の子と仲良くなれるなんて。

まあ、水かぶったのは別として。

アトリエデビューの服装がジャージってのも別として。

デッサン編1 鉛筆を買おう！

「あれ、水島さん？ どうしたのそれ」

アトリエのあるビルの2階に入ると、後ろから声をかけられた。振り返るとスキンヘッドの大柄な男性が事務室から出てくる所だった。

「屋敷先生」

一度見学に来た時に案内してくれた、アトリエで一番偉い人。見た目はまああれだけど、実はすごく優しい先生だったりする。初めて見た時はちよつとした恐怖を感じたけど。

「はは、ちよつとした事故で……」

曖昧に笑って誤魔化した。

「そうか？ 着替えた方がいいぞ？ そしたらデッサン道具一通り揃えて欲しいから、下の画材屋さんで買ってきて」

そう言っ必要道具の書かれたプリントを渡された。

先生……。画材屋『さん』って。可愛すぎです。

千帆ちゃんも同じ事を思ってるらしく、うつ向いて肩を少し震わせていた。

「高島さん、色々教えてあげてね」

「は、はいっ」

不意打ちだったらしく、千帆ちゃんの声がひっくり返っていたのを私は聞き逃さなかった。

使っていない部屋で学校指定の黒ジャージに着替えると、外で千帆ちゃんが待っていてくれた。

良かった。

プリントに書いてある単語がマニアックすぎて、1人じゃ絶対分からなかったもん。

画材屋さん『太陽堂』は、階段を降りて1つ下の階に入っている。店内は何に使うのか良く分からない画材が所狭しと並べられてる。通路が狭いのはどこの画材屋さんでも共通らしい。画材買うのってわくわくするな。

「まずはー、鉛筆！ 6Bから6Hまでを全部2本ずつ買います」

「ろ、6Hなんてあるんだ……」

「9HとかFもあるよ」

鉛筆すごい。

「Fって何？」

「HBとHの間。確かFirmのFだったかな。HはHardでBはBlack」

鉛筆奥深い。

感心していると、千帆ちゃんが試し書き用の鉛筆を3種類、私に差し出してきた。

青いのが1種類に、えんじが2種類。

「どれがいい？」

「うーん……。これ何か違うの？」

試し書きしてみるものの、イマイチ良く分からない。

「違うよー。ステッドラー青いのは硬いから薄くて、青っぽい発色なの。ユニえんじのは柔らかいから濃くて、茶色っぽい発色。もういっこのえんじハイのやつはユニより粒子が細かいから発色がきれいに出る。最初は色々試してみるといいかもね」

うう、違いの分からない女だ。私。

「じゃあステツ……え、これ何で168円もするの？」

ステッドラーの値段を見て驚愕した。

鉛筆って何十円の世界じゃないの！？　よく見るとハイユニも168円だし！！

唯一ユニだけが95円。

鉛筆って何十円の世界じゃないの！？

「ああ、えーと『プロのこだわりとネームバリューと社員のごはん代じゃない？』ってミヤが言ってた」

「へえ……？」

誰ですかミヤって。

「で、どれ買う？」

「ユニ」

即答してから少し悲しくなった。

私ってこういう所が公立高校生だなあ。

デッサン編1 鉛筆を買おう！（後書き）

★今回のまとめ★

鉛筆の濃さは大きく分けてH系とFとB系の三種類。

H系は芯が硬いので色が薄い。

B系は芯がやわらかいので色が濃い。

FはHとHBの間。

鉛筆デッサンで主に使われるメーカーはステッドラー・ユニ・ハイユニ。

ステッドラー↓青い軸。硬い。青っぽい発色。

ユニ↓えんじの軸。やわらかい。茶色っぽい発色。安い。

ハイユニ↓ユニより粒子が細かいので黒がきれいに出る。

デッサン編2 デッサン用具を買おう！

「次ー。練りゴム」

小学生の頃練り消し流行ったなあ。

消しゴムで練り消し作ったり。

「高いけど緑のやつがおすすめだよ。白いのは手にくっついて使にくいの」

「じゃあ緑のにする」

懐に寒さを感じた気がしたけどきつと気のせい。

「擦筆は柔らかい方がいいみたい」

「何これ？」

それは白い紙が鉛筆状に巻かれてる物体だった。

そういえば学校の美術室にあったかも。

「それで鉛筆の線をぼかすんだよ」

「へえ、そんな道具もあるんだ」

「よく考えるよね」

「エスキース帳は気に入ったやつ適当に買って。B5サイズくらいのやつね」

「何でもいいの？」

「うん、落書き帳みたいなものだから」

エスキース帳は薄い紙のリングノートみたいなもの。

少し考えて、ベージュの表紙でCROQUISって書いてあるのにした。

「最後に水張り用具だね」

「みずばり？」

「うん、パネルに紙張るんだけど後でやり方教えてもらえると思う」

よ」

買い物カゴにB2パネルと水張りテープと刷毛と絵の具バケツとB2のM画用紙が追加された。

「デッサンって紙と鉛筆さえあればいいものだと思ってた……」

圧倒されて私は、半ば放心しながら画材を抱えている。

「絵の具やるようになったらこんなの目じゃないぞ☆」

そんな笑顔で脅さないでください。

「じゃあデザイン科室いこ。もうそろそろ先生来てるんじゃないかな」

「うんっ」

階段を上って左側、千帆ちゃんが白い扉を軋ませて開ける。

いよいよかあ。少し緊張。

デッサン編2 デッサン用具を買おう！（後書き）

★今回のまとめ★

練り消しゴム↓ 緑のは硬め。白いの（イーजीークリーナー等）はやわらかめ。

擦筆↓ 細かい部分をぼかすのに使用。

エスキース帳↓ エスキス帳、クロッキー帳とも。下書きやアイデア出し、メモ、落書き等に使用。

これ以外に、ティッシュ（広範囲をぼかす用）とカッター（鉛筆削る用）も必要です。

鉛筆類は100均の透明な工具箱に入れてる人が多いです。平べったいのがおすすめ。

まだ色々揃えるものはあるのですが、最初はこれくらいあれば十分かなと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9418h/>

アトリエデッサン☆美大受験日記

2010年10月28日05時02分発行